

## 留学体験レポート

新潟国際情報大学  
国際文化学科  
21017021 上田隆矢

9/1から韓国での留学生活が始まった。この留学の目的は、主に韓国語を上達させること、韓国の文化・歴史を様々な視点から学ぶこと、留学で学んだ知識を他者の役に立つことに活用していくことの3点である。韓国に来て、最初に驚いたのは、街並みが、日本と全然違うことである。日本と似ていると聞いていたが、実際見てみると日本の街の風景とは全く異なる。個人差はあると思うが、私は、日本の街の風景とは全然違うと思った。また、トイレ等の設備が日本よりも汚い場合が、多く慣れるまで大変だった。次に、コンビニやレストランの店員に笑顔が無いことだ。レストランで頼んだ食事を持ってきたとき、黙って食事だけおいて行ったり、冷たい感じで召し上がられただけ言って、置いていく店員も多かった。勿論、日本みたいに、丁寧に対応してくれた店員もいたが、日本だったら、クレームが来るような接客をした店員もいた。コンビニでもお釣りを投げて渡したり、黙って代金を受取り、商品を渡す店員もいた。文化の違いなので仕方ないと思うが、日本の丁寧かつ笑顔な店員に慣れている我々にとっては、気分が良くはなかった。地下鉄での様子も日本と全然異なった。地下鉄の中で商売をやっている人もいれば、寄付活動をやっている人もいた。地下鉄の中で通話していたり、大きな声で話している光景も数多く目にした。また、日本語や日本製品が至る所にあった。寮の近くのコンビニには普通にお一いお茶が売られていた。よく購入し、日本の味を楽しんでいた。ほかにも、ワンピースのキャラクターの人形が置かれているレストランや日本酒も多く見かけた。

授業は、CEPの授業が英語で行われる様に、全て韓国語で行われ、リスリングが苦手な私にとっては、少し大変だった。でも、先生方が、丁寧にサポートしてくださったので、授業の内容を理解しようと努力することが出来た。成績は、リスリング以外普通だったが、リスリングの点数が振るわず、課題が出された。少し大変だったが、リスリングの力を少しでも向上させるために真剣に課題に取り組んだ。

留学期間中授業がない日や比較的暇な時には、どこかに行って、韓国の文化・生活に触れるようにした。色々な場所・観光地を訪れ、多くのことを吸収した。特に、博物館は勉強になるので是非積極的に訪れてほしい。最後の自由研修期間には、遠くの場所を訪れて韓国を違った視点から見つめなおそうと思ったが、初日仁川に行った際、足を怪我して次の日から何処にも行けなくなってしまった。貴重な時間を無駄にしないためにも、怪我や病気には、十分注意して観光を楽しんでほしい。

しかし、この留学は決して良いことばかりではなかった。慣れない環境の中、価値観や考え方の違う人と一緒に行動し、生活するわけである。価値観や考え方の違いからトラブルや

喧嘩になることもあったり、想定外のことが多すぎて、戸惑い、親や先生・他の留学生に誤解や迷惑を与えてしまい、不快にさせてしまったこともあった。帰国したいと思ったこともしょっちゅうあった。また、体調も度々悪くなり、病院に4回もいった。自由研修期間初日には仁川で足を怪我してしまい、何もできずに終わってしまった。マイナスなことも嫌な思い出だったで終わらせるのではなく、なんで上手くいかなかったかについて、一つ一つ分析・反省をして今後の就職活動・卒論作成・ゼミ活動等に生かしていきたい。

この留学を終えて私は、今までの自分の考えについて疑問を持つようになった。テレビやまとめサイトの情報から韓国人は反日だという印象が行く前からあり、来てすぐは余り日本人だと気づかれぬように過ごしていた。しかし、日本人だと分かると親切に話しかけてくれた老人や日本語でサポートしてくれた店員も多くいた。至る所に日本語があり、日本料理店に行くと韓国人が美味しそうに日本料理を楽しんでいた。確かに、慰安婦・徴用工像や竹島の模型も沢山目にし、留学中も日韓では様々な揉め事があったみたいだが、留学期間中それらに絡めて文句を言ってきたり、意見を求められることは全くなかった。意外と親日だなという印象を受け、まとめサイトやテレビの世界とは、違う世界だなとさえ思った。勿論、様々な意見の人はいるだろう。しかし、だからといって、個人のつながりまで無くしてしまうのは、正しいのだろうか。政治問題は政治問題として今後も解決策を根気よく話し合っていかなければならない、でも、文化や交流は別物だ。私は、課題で日本と韓国のアニメーション文化の違いについて調べたが、韓国の若者には日本のアニメがブームだという。至る所に日本のアニメキャラクターの人形があった。国と国との関係にとらわれ過ぎると大切なものまで見えなくなると実感した。韓国人に限らずこれからもいろいろな国の人と交流を深め、繋がっていききたい。機会があれば北朝鮮にも行ってみたいと感じた。最後に、留学期間中お世話になった全ての人に感謝申し上げるとともに今後ますますのご活躍を祈っている。